

第2回 福祉職等向け「医療的ケアを必要とする子どもの支援」研修会 実施報告書

1. 開催日時 平成30年1月14日（日）9：30～15：40

2. 会場 神奈川県総合医療会館

3. プログラム

- (1) 新生児医療と小児在宅医療の現状（講師：神奈川県立こども医療センター 患者家族支援部 星野 陸夫）
- (2) 医療的ケア児 ～医療的ケアと家族の状況～（講師：同上）
- (3) 重症心身障害児 ～障害児の発達と障害の受容～（講師：神奈川県立こども医療センター 重心施設長 井合 瑞江）
- (4) 障害児の退院支援 ～病院における退院支援～（講師：神奈川県立こども医療センター 退院・在宅医療支援室 安西 智子）
- (5) 障害児の家族支援 ～病院MSWが行っている家族支援～（講師：神奈川県立こども医療センター 医療福祉相談室 宮川 有美子）
- (6) 障害児の生活支援 ～障害児のための制度・サービス～（講師：風祭の森 太陽の門福祉医療センター地域支援課 大友 崇弘）
- (7) 合同討議 ～質問の共有（発表なし）～
- (8) 質疑

4. 受講者数 56名

5. 受講者内訳

・職種別※複数回答有（人）

| 職種 | 人数 |
|-------------|----|
| 看護師 | 13 |
| 相談員 /支援員 | 19 |
| 保育士 | 8 |
| PT・OT・HE | 4 |
| SW・CW・CN | 7 |
| 保健師 | 1 |
| 事務 | 1 |
| 教員 | 0 |
| その他 | 7 |

・勤続年数（人）

| 3年未満 | 3～9年 | 10年～ | 未回答 |
|------|------|------|-----|
| 21 | 16 | 17 | 1 |

・勤務先所在地（人）

| 横浜市 | 川崎市 | 大和市 | 小田原市 | 厚木市 | 逗子 | 相模原 |
|-----|------|-----|------|------|----|-----|
| 10 | 9 | 2 | 2 | 3 | 1 | 6 |
| 平塚市 | 茅ヶ崎市 | 藤沢市 | 鎌倉市 | 横須賀市 | 綾瀬 | 未回答 |
| 8 | 3 | 2 | 1 | 4 | 1 | 3 |

6. アンケート集計結果（配布数：56 回収数：55 回収率98.2%）

(1) 直近1年間に、医療的ケアを必要とする18歳以下の子ども（以下、医療的ケア児）と関わったことがあるか。
※間接的な相談支援等を含む

→ある・・・47人

…平均件数（年間）12件

分布（人）

| 10件未満 | 10～19件 | 20件以上 | 未回答 |
|-------|--------|-------|-----|
| 23 | 7 | 9 | 8 |

→ない・・・8人

…関わっていない理由（複数回答有）

- ・勤務先の方針として受入れていないため 1人
- ・そうした子どもと関わる機会がないため 3人
- ・未回答 4人

(2) 研修会への参加理由（複数回答可）

- ・医療的ケア児と関わった経験があるため
- ・将来的に、医療的ケア児と関わっていききたい気持ちがあるため
- ・勤務先が今後、医療的ケア児の受入を検討しているため
- ・その他

(人)

| |
|----|
| 41 |
| 11 |
| 7 |
| 7 |

- (多数意見)
- ・今後増えていくであろう医療的ケア児受入の最新動向について、興味があった。
 - ・医療現場の講義を通して、在宅移行前のことを知りたかった。
 - ・正しい知識を身につけたかった。

(人)

(3) 各プログラム内容について

- ①「新生児医療と小児在宅医療の現状」について、興味をもてた。
- ②「医療的ケア児と家族の状況」について、興味をもてた。
- ③「重症心身障害児の発達と障害の受容」について、興味をもてた。
- ④「障害児の病院における退院支援」について、興味をもてた。
- ⑤「障害児へ病院MSWが行っている家族支援」について興味をもてた。
- ⑥「障害児の生活支援（制度・サービス）」について、興味をもてた。
- ⑦ 合同討議において、医療的ケア児に関する不安や疑問を共有できた。

| はい | どちらとも いえない | いいえ | 未回答 |
|----|---------------|-----|-----|
| 54 | 1 | 0 | 0 |
| 54 | 1 | 0 | 0 |
| 51 | 2 | 0 | 2 |
| 48 | 5 | 0 | 2 |
| 47 | 6 | 0 | 2 |
| 48 | 4 | 0 | 3 |
| 38 | 3 | 0 | 14 |

(人)

(4) 研修会を終えて

- ① 医療的ケア児との関わり方について、イメージがもてた。
- ② 今後医療的ケア児に関わる機会があれば前向きに考えていきたい。
- ③ 今回の研修内容の難易度について、どのように感じたか。
- ④ 今後、受けてみたい研修会のテーマや内容の希望（自由記載）

| はい | どちらとも いえない | いいえ | 未回答 |
|----|---------------|-----|-----|
| 51 | 4 | 0 | 0 |
| 50 | 5 | 0 | 0 |
| 0 | 46 | 6 | 3 |

(難しい ちょうど良い 易しい)

(多数意見)

- 医療・福祉・教育の地域連携（第1回共通）
 - ・医療・福祉・教育それぞれが担うべき役割について。
- 医療的ケアの実践（第1回共通）
 - ・福祉職でも可能な医療的ケア（体位等、基礎的な知識）の実践及び代表疾病の医学的知識に関して。
 - ・災害時の対応について。
- 障害児者を取り巻く制度・サービス（第1回共通）
 - ・小児在宅を支える制度・サービスについてより詳しく学びたい。成人移行による窓口の変化等も含む。
- 障害児者とその家族の支援（第1回共通）
 - ・母子分離をテーマに、親の心理や、医療的ケア児の自己決定支援について。
- その他（新規）
 - ・地域支援に関して、他地域や諸外国における先進的事例の紹介。
 - ・難しい事例について、地域での対応を例示するようなケース検討型の講演会、事例発表。

(5) 医療的ケア児の地域生活に関して、行政からどのような支援があったらよいか。

(多数意見)

- 現行制度の見直し（一部新規）
 - ・医療的ケア児が付き添い不要で学校登下校ができる制度の構築。
 - ・地域施設の看護師を守るため、医師からの明確な指示書の法制化及び指示書の無料化。
 - ・通常の支援制度の枠から外れてしまう児（医療的ケアを選択せず見守りを選択した児、条件を満たさない児等）に対しても支援が可能になる制度作り。
- 地域病院における医師の育成（新規）
 - ・在宅移行後、重心児（成人移行含む）の地域において主治医となれる医師の確保を目的とした、医師会等への働きかけの実施。
- 医療的ケア児が利用できる福祉サービスの充実・情報提供（第1回共通）
 - ・メディカルショートステイ等の地域格差の解消及び充実。
 - ・医療的ケア児が利用できるサービスの情報の提供（成年移行～成人期も含めてわかる、家族向けパンフ等）
- 地域の医療・福祉・教育をつなぐコーディネーターの養成（第1回共通）
 - ・成人におけるケアマネのような役割を担うコーディネーターの養成により、地域で医療的ケア児を支えていける体制作り。
(患者が住む地域において、ライフステージの変わり目にも切れ目のない支援の提供を可能にする。)
- その他（新規）
 - ・医療機器や車椅子、学校における福祉用機のレンタル利用の補助。

(6) 感想・自由意見

○感想

- 医療的な事も映像や図式などで説明いただき、とても分かり易かった。
- 出生～在宅移行するまでの話を通して、児や家族が抱えてきた思い、育ってきた背景を知ることができ、今後の参考になった。
- 看護師だが、不安や疑問に思っていた点について学ぶことができ良かった。
- 在宅支援には様々な支援が必要なため、地域施設や病院、地域住民で支えられるような未来を考え、自身も行動していきたい。
- 子どもの意思を確認しながらケアを行うという姿勢は自分の中では重要な振り返りとなった。今後のケアに生かしていきたい。
- 自身の普段の支援の粗に気づかされた。親御さんのことばを通した内容に心を打たれた。
- 医療的ケア児の受入はハードルが高く身構えていたが、今後、前向きに検討していこうという気持ちが強まった。
- 多職種の方から医療的ケア児をまつわる講義を聞くことができ、大変有意義だった。
- 合同討議や質疑では、他事業所の問題や課題が共有でき良かった。
- 支援者相談窓口の存在を知り、とても心強く感じた。
- 医療の進歩に対し、福祉、行政が追い付いていないと改めて実感した。各機関連携、これに尽きることを痛感した。
- 保護者のニーズが多様化する中、施設が対応できずギャップが生じている。福祉職としてどこまでできるのか考えていきたい。

○意見・要望等

- 医療的ケア児に関する「福祉職向け」研修会の開催を継続及び充実させてほしい。
- 今回は入門編といった扱いだったが、次回はもう少し踏み込んだ内容も聞いてみたい。
- 病院からの地域移行がある以上、地域の幼稚園、小学校等への通園・通学等の整備も同時に整えてほしい。

～以上～